

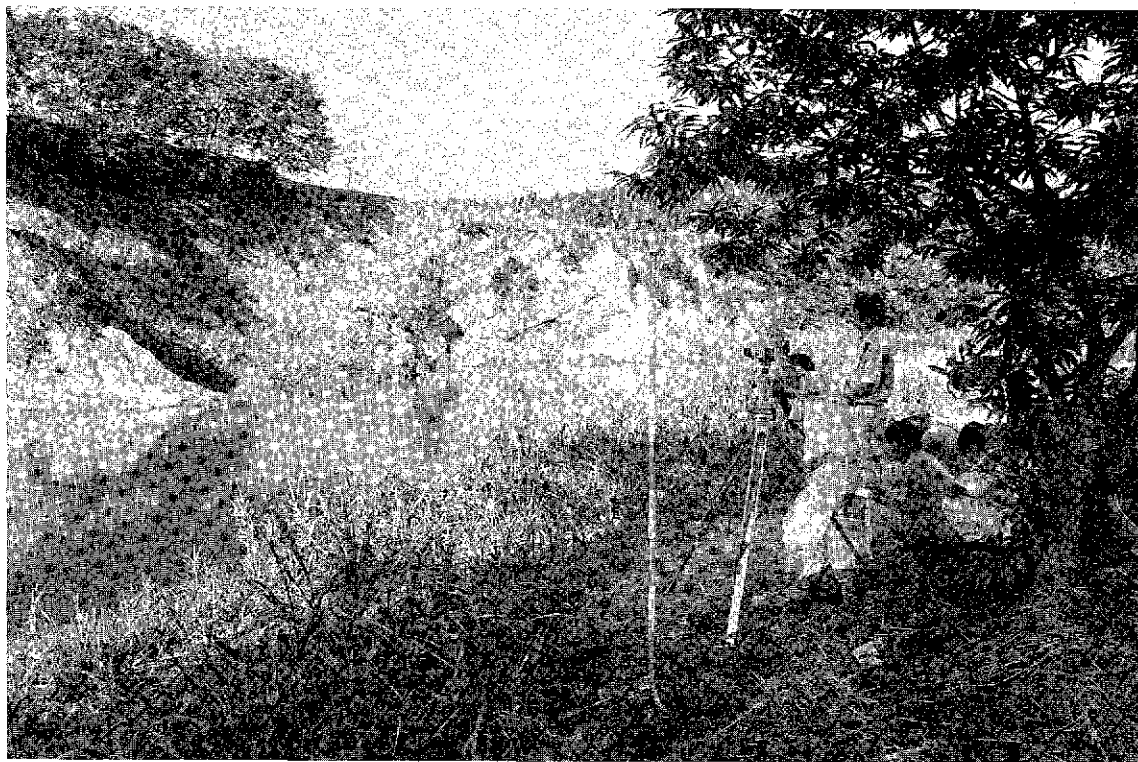
新潟県

平成7年

公民館月報

12月
第514号

特集 生涯学習時代に対応する 公民館職員のあり方



越路町

不動沢の露頭ろとう

越路町不動沢にある露頭は、地層を見る目を持った人には、七〇万年前の壮大かつ劇的なドラマを物語るようだ。地学に関心の少ない人も、ダイナミックに湾曲する地層には目を見張ることだろう。

十二年間地学を学んできた越路町「大地の会」は、この夏、新潟第四紀グループの先生方と、幅二〇〇メートル、高さ三〇メートルの露頭の調査・スケッチを行った。そのスケッチは来年中にも解説看板として現地にお目見えする予定である。

(写真提供は越路町「大地の会」)

今年初の編集委員会議終る

公民館 月報

イメージアップを検討

新委員による斬新な意見続出

十月十七日(火)午後一時半から新潟市中央公民館会議室において当県公連編集専門委員会が開催された。

今年度は、委員諸氏のうち平丸誠氏(上越市立公民館)を除く他の全委員が新しく委嘱された委員ばかりでの初会合となり、新鮮な感覚で公民館月報に対する斬新な意見が続出した。まず、イメージ的なものでは表紙の写真やロゴについてのイ

メージチェンジを図る必要がある。その他のページでもレイアウトについての工夫の必要などが提起された。

その結果、表紙のロゴやレイアウトについては、米年一月号(遅くとも四月号)から実現すべく取り組む。またその他のページについても、可能なものから徐々にイメージアップを図ることになった。

内容面では、実践記録を充実

すること、特集記事はその時々必要に応じて整理要約した内容を、という意見にこたえつつ、基本的には現状を踏襲する。また、読者対象を公民館関係者のみに絞らず、一般市民に拡げ、内容を市民向けにする必要

なども話し合われた。しかし、結論的には、県公連の機関紙として

月報は読まれている!

月報編集部では、月報の記事の関心度と特集記事の編集について、去る十月十日に、アトラ

ンダムに意見を調査した。図1によれば、視点、ひろば、特集記事の何れも、「よく読んで」が60%を越え、「その時々で違う」を合わせると90%を越えている。

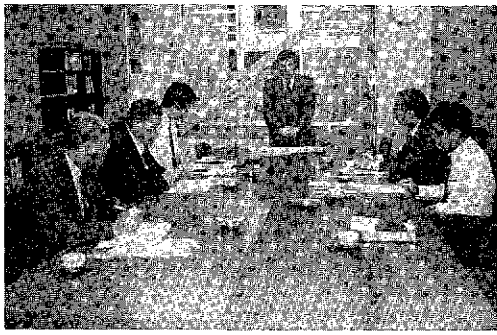
総じて、館長・公運審に比べ

しての性格を重要視した編集にすることで委員会を終った。

て職員の間関心度の低いのが問題で、今後の検討課題である。

図2によれば、今後一層充実して欲しい記事として「実践事例」「問題提起」「生涯学習との関わり」の3点が最も多くあげられ、次いで「一般教養、時の話題」となっている。

この結果を尊重して、今後の月報編集上参考にしていきたい。

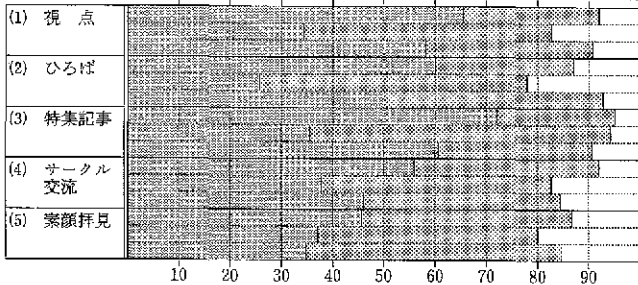
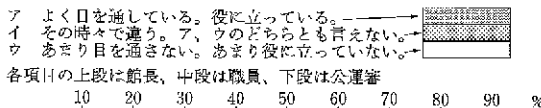


編集専門委員 (敬称略)

- 平丸 誠 (上越市立公民館副参事)
- 今井十志崇 (栃尾市公民館長)
- 飯酒益 茂 (塩沢町公民館長)
- 田中 清 (新潟市中央公民館事業係長)
- 磯辺 萃史 (新発田市公民館長補佐)
- 皆木 邦夫 (県立生涯学習推進センター副参事)

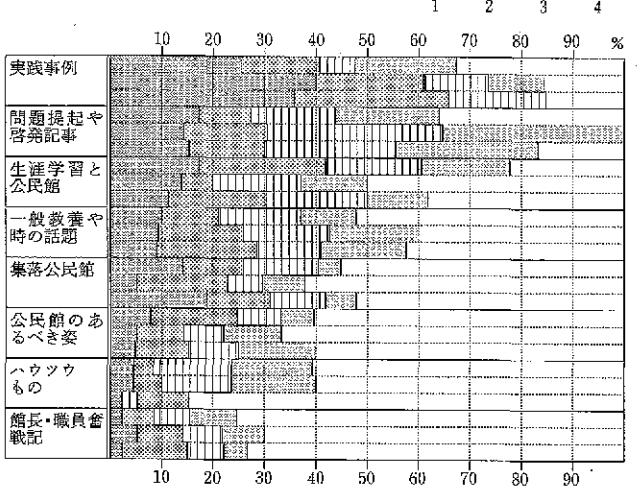
公民館月報読者調査回答集計 (H7. 10. 16)

(図1) 月報紙面の関心度



(図2) 特集記事の希望順位

各項目の上段は館長、中段は職員、下段は公運審



祝!! 全国優良公民館表彰

見附市中央公民館

見附市中央公民館は平成7年度の第48回優良公民館として表彰の榮譽に浴した。

同公民館は、昭和33年度にも優良公民館表彰を受賞しており、このたびで二回目である。

同市の体制は、中央公民館の他に五つの地区館が置かれ、それぞれ独立の施設をもち、職員体制も整備され、各館が連携を保ちつつ独自の役割を果たして

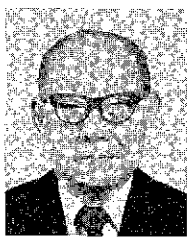
いる体制の整備と、活発な活動が評価されたものである。

ちなみに、中央公民館独自の事業では、見附市のトータルファッションシティにふさわしいデザイン感覚を磨く「デザイン講座」の開設をはじめ、青少年の自主活動の育成のための「ライプイン見附」などに、地域に密着しつつ、ユニークで多様な活動を展開している。

「ライプイン見附」など、地域に密着しつつ、ユニークで多様な活動を展開している。

視 点

新潟市中
央公民館使
用団体連絡
協議会では、平成元年に公民館誕生四十周年と、同協議会発足十周年を記念してのイベントをと、市内各地区公民館の短詩型文学のサークルに呼びかけて、「夕日を眺め



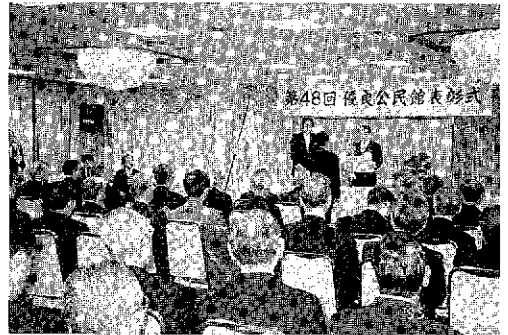
てのイベントをと、市内各地区公民館の短詩型文学のサークルに呼びかけて、「夕日を眺め

公民館合同美術展について

服部 欣一

り、それ以来本年度で七回目の会を催しました。

この様な催しを持つことは生涯学習のためにも良い事ではないかと考え、協議会役員会



第48回優良公民館表彰式

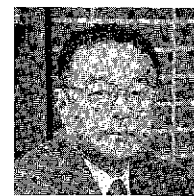
て俳句、短歌、川柳を作る会」を催しましたところ、各公民館より十二グループ七十四名の参加者があり、交流の实をあげ盛會裡に終了し、参会者より来年も是非との声が多くあ

に提案し、短詩型文学にばかりでなく、美術関係のサークルの皆さんにもと、中央公民館長さんとも相談し、ご協力が得られましたのと、市美術館にも働きかけ、全市公民館協議

さされました。以来この美術展は、出品された皆様の、一般の方々も公民館での生涯学習の成果を鑑賞することの出来る場として大変好評を博しており、明年二月にも開催する予定です。

共生の時代

渋谷 致



「戦後五〇年」ということが殊更に強調されているのではないかとと思われるほどの昨今のマスコミである。しかしそこには単なるマスコミの波に乗った時事用語としてではなく、一つの区切りがきて今私たちの身の回りは、大きな変革・転換の時を迎えていることを表わしているように思うのである。

ひ る ば

教育の面からみても、戦後五〇年、経験重視から基礎学力(知的能力)重視へ、そして再び経験重視へと二つの間をゆれ動いてきた。しかし、今私たちが迎えている大きな変化は、この二つの流れのどちらかなどという二者択一の問題ではなく、さまざまなかというところである。即ち、二者択一の世界から共生の世界への転換なのである。二者択一の世界では競争の原理が強く働いてくる。そして勝者の論理がまかり通るのである。だから幼児期より、ただひたすらにエリートコース(勝者の道)を歩むことを求め、求められてきた若者の一部を「己れの人生が天国に進むか地獄に落ちるかか別れ道」と暗示されるや殺人行為も平気で行って勝者の道を進もうとする幼児性まる出しの人間にしてしまっているのである。相手を蹴落して自分が生きていくのではなく、共に手を取り合ってそれぞれの人格を尊重して生きていく時代になっていっているのである。教育は公教育化の方向で発展してきたが、現在は大検受検者の増加傾向や登校拒否の子供たちのためのフリースクールのものも存在、臨教審でも議論された学習塾との連携など、公共性と私事性との共生が現実化してきている。

公民館においても同様であろう。学校やその他の団体との共生を更にすすめるとともに、営利企業団体等の利用も含めて、公共性と私事性の共生を図っていかねばならない時代がきた。(所属公民館 刈羽村中央公民館)

公民館職員のあり方 事業の企画・実施・評価と職員

兵庫県豊岡市中央公民館長

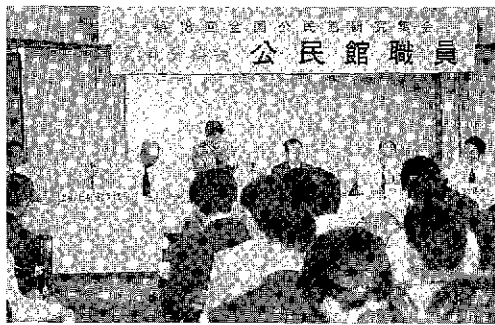
竹森 誠 喜

公民館プロフィール
豊岡市は兵庫県の北部に位置し、日本海に面する人口四万八千人の都市。

公民館は、中央公民館と十の地区館で住民のサービスタに当たっている。職員は各館三名を配置している。その内訳は、館長(非常勤嘱託)主事は各館一名(中央公民館及び市街地地区館のみ一般職員で、他の地区館は非常勤嘱託、週三六時間)、生涯学習補助員(臨時、年間平均百十五日)の総勢三三名。
主事の総数十一名、うち正職員二、非常勤嘱託九、性別では男六女五、平均年齢五十歳、経験年数平均十年

一、はじめに
「主事が代われれば公民館は変わる」というのが、住民の率直な声である。主事はただ一人専任の常勤者として、住民サービスの最前線に立つのだから、人間性が問われるのは当然のことである。それだけでなく、公の学習提供機関であるから、職員の資質が問われるのもまた当然のことである。
そこに、公民館職員の事業推進に当たって、どのような姿勢を持ち、どのように推進していけばいいのか、ということが問題となる。
二、望まれる職員の資質
(1) 基本姿勢
まず「公民館は何をすることか」を即座に答えられる職員であることである。
豊岡市では、百を越す団体が加入している文化協会の競合に加えて、県・市の行政や関連機関が主管する、公民館が太刀打ちできない予算と陣容で行なう必要課題や高度な教養講座等の狭間で、公民館は何をすればいいのか、この答えを持っていることが、公民館の仕事の明確に把握していることであり、方向を誤らないことを意味するものである。そして、その答えは、現代的課題を学習課題として提供することに他ならない。つま

り、地域社会における課題と総合的に取り組み、地域社会の発展の原動力となるのが究極的な役割であろう。
ニーズに対応した公民館活動という時、地域住民の個別的な要求に目が奪われ、地域的要求や社会的要求が霞んでしまわなように、公民館のあるべき姿の原点に立ち返らねばならない。
(2) 指導の重点を踏まえた実践
豊岡市の公民館では、兵庫県教委が毎年示す「指導の重点」の「社会教育」の領域を、各地区館の運営に生かすよう、公民館で情報加工して実践と取り組んでいる。
これまで「指導の重点」を意



識した事業があまり見当たらないことを見直した。また、必要課題を模索するなど、ムラおこしに つながる事業へと展開していた。このような再編集の能力を培いたいのである。
(3) 発想力を磨く必要、事業の再編集の能力の必要
企画における発想力というのは、必ずしも奇抜なアイデアを求めているのではない。母親が人參の嫌いな子どもに手を加えて食べさせ偏食の矯正をするように、住民の個別的な要求に少し手を加えて、必要課題にするとか、事業のいくつかを組み合わせて価値を高めることである。つまり、心の栄養面での偏食の矯正に当たれる主事でありたいのである。
ある地区館の主事は、「故郷歴史探訪シリーズ」で新田義貞ゆかりの山城跡の歴史を探りつつ、プログラムの後半には、市職員を講師にして城跡の公園化を模索するなど、ムラおこしに つながる事業へと展開していた。このような再編集の能力を培いたいのである。
(4) 一人相撲をとらないこと
主事の学習者への過剰なサービスは学習にならない、学習者をお客様にしないではほしい、という学習者からの声があった。生涯学習時代にあつて、必要な能力というのは、自己教育力で

ある。自ら考え、判断し、表現し、行動する力を身につけることである。至れり尽くせりのサービスは学習者にとっては迷惑である。したがって、主事は立案段階から一歩下がって、学習相談の姿勢で対応することが大切である。
(5) 評価で締め括る能力
評価は、必ずしも調査やアンケートなどによるようなものだけではない。学習の場面から把握することも重要である。学習者の表情や反応から、多くの評価を得ることが出来る。ということは、講師紹介のあとは、事務室に引っ込んでしまったのでは評価の機会を失ふことになると言いたいのである。
三、まとめ
主事に求められる資質能力は公共の論理を自覚して、再編集の能力を事業の企画面に発揮し、学習者主体の事業を展開していくことである。
また、事業終了後は、それを評価して次年度への構想に役立てることである。そして、効果的な事業推進や、激しい時代の変化に対応するために、不断の研修が大切になる。常に研修に励み、事業実態の評価に生かしたり、具体的な改善策が生み出せる職員でありたい。

かかったことを反省し、住民の個別的ニーズへの対応から、現代的課題への対応を大切に実践のできる職員であることである。
(3) 発想力を磨く必要、事業の再編集の能力の必要
企画における発想力というのは、必ずしも奇抜なアイデアを求めているのではない。母親が人參の嫌いな子どもに手を加えて食べさせ偏食の矯正をするように、住民の個別的な要求に少し手を加えて、必要課題にするとか、事業のいくつかを組み合わせて価値を高めることである。つまり、心の栄養面での偏食の矯正に当たれる主事でありたいのである。
ある地区館の主事は、「故郷歴史探訪シリーズ」で新田義貞ゆかりの山城跡の歴史を探りつつ、プログラムの後半には、市職員を講師にして城跡の公園化を模索するなど、ムラおこしに つながる事業へと展開していた。このような再編集の能力を培いたいのである。
(4) 一人相撲をとらないこと
主事の学習者への過剰なサービスは学習にならない、学習者をお客様にしないではほしい、という学習者からの声があった。生涯学習時代にあつて、必要な能力というのは、自己教育力で

ある。自ら考え、判断し、表現し、行動する力を身につけることである。至れり尽くせりのサービスは学習者にとっては迷惑である。したがって、主事は立案段階から一歩下がって、学習相談の姿勢で対応することが大切である。
(5) 評価で締め括る能力
評価は、必ずしも調査やアンケートなどによるようなものだけではない。学習の場面から把握することも重要である。学習者の表情や反応から、多くの評価を得ることが出来る。ということは、講師紹介のあとは、事務室に引っ込んでしまったのでは評価の機会を失ふことになると言いたいのである。
三、まとめ
主事に求められる資質能力は公共の論理を自覚して、再編集の能力を事業の企画面に発揮し、学習者主体の事業を展開していくことである。
また、事業終了後は、それを評価して次年度への構想に役立てることである。そして、効果的な事業推進や、激しい時代の変化に対応するために、不断の研修が大切になる。常に研修に励み、事業実態の評価に生かしたり、具体的な改善策が生み出せる職員でありたい。

ある。自ら考え、判断し、表現し、行動する力を身につけることである。至れり尽くせりのサービスは学習者にとっては迷惑である。したがって、主事は立案段階から一歩下がって、学習相談の姿勢で対応することが大切である。
(5) 評価で締め括る能力
評価は、必ずしも調査やアンケートなどによるようなものだけではない。学習の場面から把握することも重要である。学習者の表情や反応から、多くの評価を得ることが出来る。ということは、講師紹介のあとは、事務室に引っ込んでしまったのでは評価の機会を失ふことになると言いたいのである。
三、まとめ
主事に求められる資質能力は公共の論理を自覚して、再編集の能力を事業の企画面に発揮し、学習者主体の事業を展開していくことである。
また、事業終了後は、それを評価して次年度への構想に役立てることである。そして、効果的な事業推進や、激しい時代の変化に対応するために、不断の研修が大切になる。常に研修に励み、事業実態の評価に生かしたり、具体的な改善策が生み出せる職員でありたい。

生涯学習時代に対応する「ゆずり葉グループ」の誕生

十日町市公民館「ゆずり葉グループ」代表

桑原光江

「ゆずり葉」グループのプロフィール

十日町市公民館の、昭和60年に開設した婦人学級が、昭和62年までの三年間学習した過程で、発展的な学習グループとして結成されたのが、ミニコミ紙「ゆずり葉」である。

それから八年経過したいま、婦人学級生OBとして、なお継続して活動をし、平成7年10月に100号を刊行、30名で出発した会員も約百名、発行部数千九百部になっている。

「ゆずり葉」グループと講師担当主事さんとの絆は今なお太く結ばれている。

一、ミニコミ紙「ゆずり葉」の誕生の経過

昭和60年に開設した婦人学級の受講生30名は、開設した当初は、講義を聞くだけの「学級」という軽い気持ちで参加した。しかし、その「承り」学習も講師と担当主事のさり気ない指導によって、いつの間にか、読むこと、書くこと、話すことが重点となり、厳しさの伴う学習活動になったが、そのことが、後々まで学習活動の続く力になったのである。

3年目のプログラムが受講者を大きく変えることになった。つまり、2年目の復習の講義を進める中から、講師は「女の老いの厳しさは十分過ぎるほど学習したはず、今年はその厳しさ

に向かつて一歩でも半歩でも踏み出してみよう」と呼び掛けられた。また「学習しても、頭にしまっておくだけでは役に立たない、地域に返してこそ学習が生きる」というものであった。

私たちが、学習の成長を役に立てたいという気持ちは持ち直し、出ていたことから「自分たちで出来る何かをやってみよう」ということになった。

講師に呼び掛けられ、その気になったものの、講師がその内容を提案してくれるでもなく、担当主事がお贈立してくれても無い。私たち自身で「私達に何が出来るか」を考えねばならなかったのである。

暗中模索の中から、①婦人学級終了後も、仲間のふれあいを

深めたい。②学級終了後も学び続ける姿勢を失いたくない。③現在すでに老いを生きている先輩から学ぶことが出来るということなどから、ミニコミ紙に取り組みのいいということになった。

二、ミニコミ紙づくりと講師・担当主事との関わり
「たとえ3カ月でだめになっても、たとしても、何もしないよりはいい」と軽い気持ちで、ミニコミ紙づくりに取り組むことにしたのである。しかし、資金のこと、組織のこと、原稿の書き方や、原稿依頼の相手など何も分からず不安だらけの出発であった。

それでも何とかミニコミ紙づくりが動きだすと、講師や担当主事さんから紙面のレイアウトなどの指導をしてもらい、なんとか第一号が出来上がった。この紙面づくりのサポートが、その後の継続の大きな力になって

いる。
講師や主事さんの私たちへの接し方は、決して自分たちが牽引役になろうとするものではなく、求めがあれば相談に乗るといったスタンスなのである。

この点は、豊岡市の発表者の言うように「主事の過剰なサービスは学習者にとって迷惑」であるという発想と全く同様の考え

方である。一歩下がって相談者の姿勢なのである。

はじめの3カ月は学級の一貫として、公民館で印刷させてもらった。その間に組織づくりに取り組み、ミーティングの司会を担当した私と、積極的に学級をリードしてくれているMさん（現在も事務局で活躍）とで発起人となって、グループが結成され、今日に続いている。

三、まとめ
現在では、マスコミのPRもあり地域に輪を広げている。公民館関係者、読者、投稿者に支えられ、版を重ねて100号を越え、発行部数千九百。読者の要望により、活字を大きくするためA4判にして業者に発注、配布会員の他に配達ボランティアの協力も得ている。

この活動を通じて、会員と読者、読者同志の交流と、近隣市町村や県内外の方々との交流も生まれている。

このような息の長い、そして幅の広い活動ができるのは、講師と、担当公民館主事さんの絶妙な指導力があつたからである。また、いまだに、その絆は太く結ばれている。



実践記録シリーズ (2)

建国4年目の『年輪共和国』

豊栄市中央公民館

はじめに

『年輪共和国』は建国して四年目を迎えるグループです。男性十一名女性二十一名計三十二名の五十五歳以上の人たちが集まり、高齢者である私達のライフスタイルを新たに探り、より充実した人生を求めて結成した市民グループです。

活動の指針を明確にするため



定例勉強会

『憲法』を制定しています。その骨子は、「国民(会員)自ら自己を高め、人生の達人として充実した人生を送ること」に始まり、健康の増進、学習の機会をつくること、常に挑戦意欲を失わないこと、人生の中で培ってきた知恵と勇気を社会に還元すること、諸外国(他団体)との交流を積極的に図ること、など

が謳われています。『年輪共和国』の多様な活動の中から主なものを紹介します。

一、年輪共和国大賞の贈呈と交流パーティー

国民の身近で、人知れず素晴らしい活動や、社会貢献をされている方々を発掘し、市長・市議会議員・市民団体の長・マス



年輪共和国大賞授与式



地域子ども会に昔遊の指導(お手玉)

コミ関係者など多数の来賓の臨席のもとに、その行動を褒め讃え、自らの活動に自信と誇りを持っていただくとともに、更なる活躍を期待し、当市の活性化に寄与しようというものです。

これは、共和国憲法の「知恵と勇気の社会還元」に基づく最も重要なイベントです。三十二名の国民の一人一人が日頃から、市内の人と動きに注目し、色々な分野の方々を発掘し推薦します。そして、幾度も全体会議で協議して、受賞者を決定します。この一連の作業が共和国

民によって「いま、豊栄市がどんな状況にあるのか、そして、どんな人たちが、どのような活躍をしていられるのか」などの様々なことを学ぶことが出来、国民にとって「郷土を知り学ぶ」ための素晴らしい機会になっています。

ちなみに、昨年度の受賞内容は「町並景観賞」「伝統文化賞」「まちづくりデザイン賞」「市民文化賞」「ボランティア賞」「町づくり賞」などがあります。

二、「阪神大震災被災者支援イベント」(平成六年度事業)

平成7年1月17日に発生した阪神大震災により阪神地方の壊滅的な打撃を受け、多くの犠牲者を出しました。

豊栄市は、昭和四十一年、四

十二年と二度にわたる大水害に襲われたとき、全国から温かい手が差し延べられ、励まされ勇気づけられました。その時の温かい心に報いたいと、当「年輪共和国」では、早速、国民の全体会議を開き、被災者支援イベントを計画しチケットの売上金十万円を義援金として送りました。この事業は共和国憲法における「挑戦欲の発揮」の格好の場として捉えました。

この時のイベントは、講演には、花積正夫氏による「高齢者のライフスタイルを探る」と、水原町在任の市民落語家三遊亭慎楽師匠による「人生グッドグッド」でした。

三、その他の事業
各地域の子ども会や、自治会の依頼で「とんと昔話の語り聞かせ」「昔の遊びの実演」「紙芝居」などを行なって市民の皆さんに喜ばれています。

最後になりましたが、今後とも『年輪共和国憲法』に基づいて長寿社会での新たなシルバーク像を求めて、楽しい人生、充実した人生、社会に貢献できる人生でありたいと、一層の充実した事業活動を実施していきたいと考えています。

(年輪共和国大統領 莊司忠也 記)

サークル交流

一歳の誕生日を迎えて

大潟町ボランティアサークル

無理せず楽しみながら長く続けて行きたいと、昨年の九月に発足して、今年一歳の誕生日を迎える事が出来ました。

生みの親は生涯学習「ボランティア教室」。そこを修了した人達が学習体験したものを生かそうと二十名でスタートしました。職業は色々で男性三名は高校生に町議、会社員(手話でできる)の方。後の十七名は女性で、小さい輪を少しずつ広げて行こうとがんばって来ました。お



げで現在は四十五名と増えて輪も大きくなりました。

活動も多くなつて、特養ホーム、町内保育所、精神障害者社会復帰施設、国立厚瀧病院には毎月一回老人病棟、重障心身障害者病棟を訪問しています。

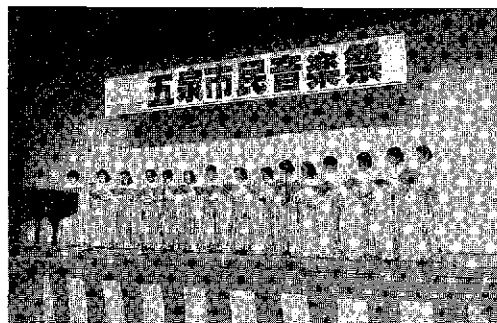
一歳の誕生日ではビールを口に和気あいあい。第二会場はラーメン屋へ。なんと安い誕生会でしょう。二歳の誕生会が出来ます事を祈り帰路につきましました。ボランティアの輪を大切に、またひと回り大きくなって行く事を願ってサークル活動を続けて行きたいと思っています。

(大潟町ボランティアサークル 代表 新保久子 記)

小さな歌声 大きな輪に

五泉市東風っ子コーラス

地域小学校的の創立記念に、子供達が新潟市の音楽文化会館で音楽祭を開催。「そんな素晴らしい場所です。P.T.Aから五十名程という願いでP.T.Aから五十名程がインスタントで練習、そして初舞台。その感激が忘れられない人達が残り、P.T.A活動から地域公民館のサークル活動として歩き始めて九年になりました



が、一人二人とメンバーが減り心細い時期もありました。

また一人二人と仲間になってくださる方もあり、今現在十五名のメンバーではあります。小学校の音楽会、公民館主催の郷土芸能祭、五泉市民音楽祭と年に三回だけの舞台にむけ、月二回小学校の音楽室をお借りして練習しております。小さなサークル活動のためか、なかなか会員も増えませんし、色々な不安点も沢山ありますが指導してくださる西脇先生を囲み会員達と話し合い、コーラスという数少ない活動の炎を消さない様、みんなが努力していきたいと思えます。

(五泉市川東公民館 熊倉豊子 記)

守門村公民館主事生涯学習係長

大塚康夫 氏

在勤五年目である。生来の明るく温かな人柄は公民館活動にびつたりのはまり役。

役場の各課を回り事務に精通していて人脈は豊かであり、何をするにも得をしている。

村の大きな目標は、教育立村であり「村づくり守門大学」を発足させて四年目、村長を学長に助役を副



学長に教育長を事務局長にして、首長部局と

素顔 拝見

新津市中央公民館 主事

山口 穂 氏

教委、学校教育課から中央公民館事業係に配属になり、二年目を迎えました。少年学習、青年学習をはじめ、主に青少年教育を担当しております。

当初から持ち前のベイタリティーで、卓越した事業の企画力、実行力は公民館には欠かせないものであります。

公私とも、付き合いが幅広く外国の友人も多く、国際交流感覚に優れ、皆さんから「ジョーさん」(本名 穂と読む)と親しまれている。また、サークル活動

教育部局が渾然一体となって運営にあたっている。

とは云っても縦割り行政はどこのどこの、根まわしやら事務的打合せに「ねばり」と「笑顔」と低姿勢でしつかり頑張っている。今年目は黒影を舞台にした映画「蔵」の撮影に協力、村で無料映写会を開いて大好評。

若さと仕事ぶりに女性と老人にファンが多いが愛妻にがっちり押さえられている。土日に仕事が多く気の毒だが仕事を楽しみと陣頭指揮で頑張っている。(教育長・公民館長兼務 高橋金一 記)



や研修会にも積極的に参加する勉強家でもあります。

家庭では、奥さんと一粒種(太陽くん)と三人家族。

仕事で夜遅くなることも多く一家団らんなど、家族サービスがままならず、もっかのところ仕事一筋ではないか？

これからの、からだを大切に一層の活躍を期待しております。(中央公民館 小野康樹 記)

恵贈資料紹介

柏崎市北条地区コミュニティ創立20周年記念

『ふるさと再発見』刊行

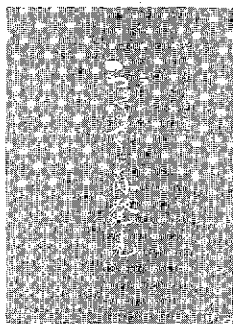


柏崎市北条地区公民館から、「ふるさと再発見」という表題の、A4判50ページからなる総アートの紙の冊子が贈られてきた。

これは、北条地区コミュニティ創立20周年を記念した事業の内容を紹介したもので、ふるさと北条を愛する地区住民の思い入れが印されている。

「ふるさと再発見」のテーマについては、郷土の文化や歴史をもう一度見つめ直すことにより、ふるさとを愛を育み、地区住民の手による地域特性を調査、把握し、存在感ある豊かな地域づくりを地区民が一体となって展開することを願ったものであるとしている。

したがって、登載されている内容を見ると、記念イベントと



さと思う作文・論文の優秀作品、地区民の意識調査結果などがある。

編集後記に「自分たちの住んでいるところを識り、それを基に将来の方向を考え、自分たちの手で地区の将来像を確立する」と記されているように、その命題こそ、コミュニティづくりのあるべき姿であり、その学びこそ公民館に求められているものであろう。

柏崎市西中通コミュニティ開館20周年記念

『西中通のあゆみ 増補改訂版』刊行

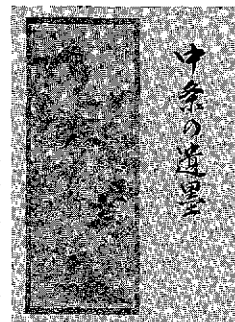


柏崎市西中通地区公民館から『西中通のあゆみ増補改訂版』が贈られてきた。

B5判、207ページからなる布クロス製の豪華な製本による西中通地区住民生活のモニュメントともいえる地区発祥史である。初版は昭和49年3月に刊行されているが、このたび、西中通コミュニティ開館20周年を記

十日町市中条地区公民館

『中条の遺墨』刊行



十日町市中条地区公民館から『中条の遺墨』という写真集が贈られてきた。

これは、ふるさと中条の歴史と文化を今に伝え、未来に残そう」という地域の人々の熱い思いから、三年前に「中条遺墨展実行委員会」が組織され、同地区出身者の作品の掘り起こしを行なうとともに、平成五年、六年、七年と三年計画による展示活動を続けてきた。

地区の人々の協力により、集め得た二百余点に及ぶ作品の集大成として、写真集にしたものであるという。

江戸時代から郡市内にさきかけて「妻有学舎」という学び舎を持つほどの教育立村の地であるだけに優れた作品が多く搭載されている。中には、富岳写真で著名な岡田紅陽の写真や、元県知事岡田正平の書なども載っており、この道に関心のある向

きには貴重な写真集である。

A4判 82ページ(うちカラー16ページ) 販価1200円 申し込み先

〒949-86 十日町市中条 旭町中条公民館あて

0257(52)2748

あとがき

◆先月号から第6面に登場している「実践記録シリーズ」のタイトル文字は、新潟市役所勤務の今井昭友氏(新潟県書道協会理事)によるものです。この素晴らしい文字に比べて、編集にも力を入れるつもりです。

◆阪神大震災、宗教、金融、経済、政治、教育などなど、大揺れに揺れた年、来年は佳い年でありますように。(上)

発行所 新潟県公民館連合会

〒951

【新潟市川端町2-9・県林業会館内】

【TEL・FAX (025)224-6073】

発行人 会長 細川 仁

編集人 事務局長 上村 捨二郎

【定価1部150円 年共・年極1,800円】